

# 大学教育改革地域フォーラムの結果等(第3報) 資料3

中央教育審議会  
大学分科会大学教育部会(第17回)  
H24.6.7

【名称】大学教育改革地域フォーラム 2012 in 早稲田大学

【日時】平成24年5月28日(月)14:45~17:30

【テーマ】「予測困難な世界を生き抜く人材の育成に、大学はどう取り組むべきか」

【形式】パネルディスカッション(進行・モデレーター:田中愛治 早稲田大学理事)

(白井克彦 早稲田大学学事顧問、吉田文 早稲田大学教育・総合科学学術院教授、  
橋本周司 早稲田大学常任理事、文部科学省)

【参加者】314名

## 【パネリストの主な発表】

- 大学教育において「何を学ぶべきか。」という点については、古典的ではあるが、基礎知識、情報分析、問題解決法、社会的能力の4つであり、これにつきる。
- 日本では多くの科目を履修しなければならないが、トータルでの米国での履修科目数は日本の半分程度である。科目数が多くなればカリキュラムマップをつくるのが困難となる。このように考えると、学生の主体的な学修は必要だが、それを実現可能にするための様々な装置を大学は考えないといけない。
- 今は予測困難な時代であるが、次の世界に必要なことを先取りすることが大学の使命である。こんな時代を生き抜く人材はどのような者かという、知識や技能などに対する感度を高めた腹の据わった人材である。そのような人材が育ってほしい。

## 【会場学生からの主な発表】

- 自分が大学でどんなことを勉強したいかわかっていない段階で自分の専門分野を決めて入学してしまうということは私にとっては大きな不安材料だった。入学後に学んだことを踏まえた、興味・関心の変化に合わせて、専門分野を選び直したり、複数分野にまたがって学ぶこと、学生が自主的に学び深めていく機会があれば、私が感じたような不安は軽減されると思う。
- 就職活動を通して感じることは大学で身に付けた専門性が求められていないということ。実際に就職面接でも卒論の内容についてほとんど聞かれたことはない。これから、企業が大学教育に対して専門性を求めれば、学修していることが社会で生きるという意識が芽生え、学生が学修する動機付けになるのではないか。
- 今回のフォーラムで発言する前、同年代の社会人に大学での学問が社会で活きているのか聞いてみたところ、その答は、ほとんどが大学での学問は求められていないというものだった。私なりに考え、結論に至ったことは、どこの学部でも共通して社会で活かせることは、論理的思考能力や文章能力、プレゼンテーション能力などではないかということ。
- 大学でのテストやレポートの採点基準がわからないことが多い。学生もそれなりに考えて提出したはずで、レポート提出やテストを受けた際には添削をいただきたい。やる気にも影響する。
- 高校3年生の家庭教師をしながら感じることは、受験に必要な科目しか教えることができないということ。やりたい勉強があって生徒から相談を受けているが、社会を見る観点など大学入学前に教えたいたことがあっても、要求されたこと以上に教えない方がいいのか、家庭教師の役割として受験科目を教えることを優先すべきなのかというジレンマがある。例えば、公務員試験なら筆記試験に加え、面接もあるはずで、大学側でも高校生の段階から社会に必要な人材を育成するなど検討しているなら教えてほしい。

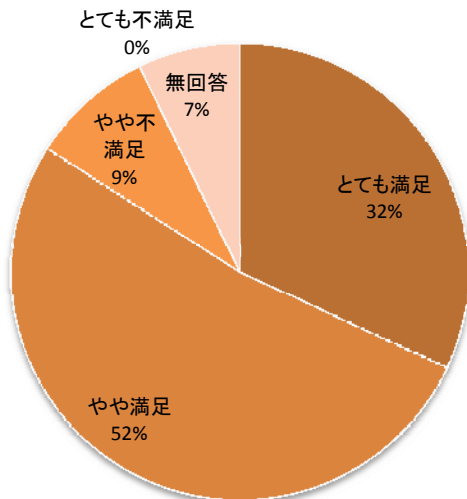
【会場参加者からの主な意見(質疑応答)】

- 学生の勉強時間に関して大学図書館の役割が欠かせないはずで、日本の大学図書館は米国で24時間開館している大学図書館と違い、日本の大学図書館は開館時間が短いほか、税金が投入されているはずの国立大学図書館は一般市民の利用が認められていないなど、地域に開かれていない。せっかくの知の宝庫が役に立っていないのではないかと。今後の日本の国力にも関係する問題。
- 大学には研究と教育という二つの役割があるが、教員の人事や評価は研究業績でされており、教育重視の大学をつくるなら、旧来の研究重視の教員をどこに追いやるのか。日本全体の学術研究の国際競争力の低下をどのように防ぐのか。教育と研究をどちらも強化するのであれば予算・人材を削減するための改革ではなく、大学から日本を変えるための予算をつぎ込む改革にしたい。
- 学生のモチベーションが低いと感じることがあるが、一つの理由は、手段として大学を使う意識がなく、大学に入ることが目的となってしまうためではないか。  
もう一つの理由は何のために勉強しているのかという問いに対する答が見いだせないこと。よくある答として勉強することによって社会に役立つ、論理的思考力が身につくなどと言われるが、それらが必ずしも説得力ある答えと思えない。

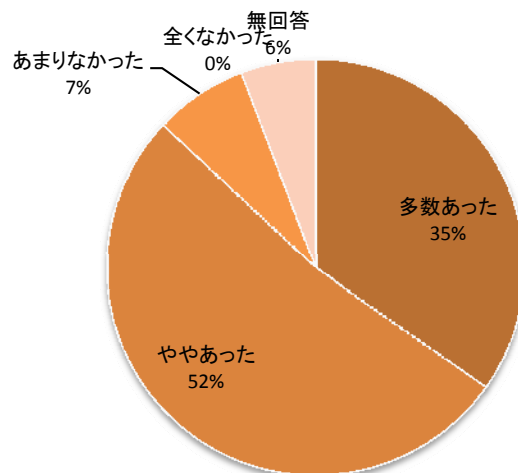
【参加者を対象とした主なアンケート結果※】※回収率=22%(69人/314人)

本日参加された満足度をお聞かせください。

フォーラム参加者の発言・コメントの中に「ためになった」「参考になった」ものはありましたか？



満足度:84%



参考となるコメント:87%

【今後の開催予定】

- 6月16日(土) 筑波大学

【開催に向けて検討中】

- 宮城教育大学
- 千葉商科大学
- 明治大学
- 愛知県立大学
- 三重大学
- 同志社大学
- 広島女学院大学
- 他

(参考) 実施済み

- 4月28日(土) 関西国際大学
- 5月16日(水) 熊本大学
- 5月28日(月) 早稲田大学

# 大学教育改革地域フォーラム2012 in 早稲田大学

「予測困難な世界を生き抜く人材の育成に、大学はどう取り組むべきか」

◆日 時：2012年5月28日(月)14:45-17:30 (受付開始14:00-)

◆場 所：国際会議場井深大記念ホール (18号館 総合学術情報センター)

◆対 象：教職員、学生、一般

◆スケジュール：司会・モデレーター 田中愛治 (理事、政治経済学術院教授)

1. 14:45-14:50(5min) 開会挨拶 鎌田 薫 (総長、法学学術院教授)
2. 14:50-17:20(2h30m) パネルディスカッション  
白井克彦氏 (放送大学学園理事長、本学学事顧問、名誉教授)  
高井美穂氏 (文部科学副大臣)  
義本博司氏 (文部科学省高等教育局高等教育企画課長)  
吉田 文氏 (教育・総合科学学術院教授)  
橋本周司氏 (常任理事、理工学術院教授)  
14:50-15:05(15m) フォーラム導入用映像 今、問われる「大学での学び」  
15:05-15:55(50m) パネリストからの発言 (1人10分)  
15:55-16:10(15m) フロア (主に学生)からの意見聴取  
16:10-16:20(10m) 休憩  
16:20-17:20(60m) フロアからの質疑応答・討議
3. 17:20-17:30(10m) モデレーターまとめ
4. 17:30 閉会

◆本フォーラムに関する問い合わせ先  
早稲田大学教務部教務課  
TEL: 03-3204-2253 (内線 71-2079/2075)  
FAX: 03-3203-8217  
E-Mail: daigaku-forum@list.waseda.jp

※本フォーラムの様子は質疑応答も含めて収録の上、「You Tube」に設置する文部科学省公式動画チャンネルに掲載いたします。  
※ご自身の発言や映像を動画チャンネルに掲載することを希望されない場合は、本フォーラム終了後、下記文部科学省事務局にお申し出ください。  
※ご参加いただく皆さまは、上記趣旨をご理解いただき、あらかじめご了承ください。

文部科学省公式動画チャンネル掲載に関する問い合わせ先  
文部科学省高等教育局高等教育企画課高等教育政策室  
TEL: 03 - 5253 - 4111 (内線 3330)  
FAX: 03 - 6734 - 3385  
E-Mail: koukyoik@mext.go.jp

## 大学教育改革地域フォーラムin早稲田大学 (5/28)の様子



会場の様子

壇上の様子



会場からの発言の様子